

第4回 総合食料産業 技術懇談会を開催

農林水産業（1次産業）、食品加工（2次産業）、流通・観光（3次産業）が連携した「6次産業」の創出による地域活性化をめざして、市では「食品加工流通コンピナート構想」の実現に向けた取り組みを推進しています。

市では構想実現に向け、食料産業技術に造詣の深い国内研究者の皆さまからご提言をいただくため、第4回総合食料産業技術懇談会を1月31日(土)に開催しました。

総合食料産業技術懇談会は食料産業に関して日本を代表する先生方や経済産業省、農林水産省などの関係者が一堂に会し、東京農業大学名誉教授の山本出座長のもと、高度かつ専門的な見地から「食品加工流通コンピナート構想」の実現に向けたご指導・ご提言をいただく会議です。

懇談会も第4回目を迎え、関係者の信頼関係も構築されてきました。そのような中、西条市、(株)西条産業情報支援センター(サイクス)、各先生方、関係者が、より迅速かつ密接に情報共有できるネッ

トワークの第一段階としてメーリングリストの構築が確認され、構想の大きな柱として位置づけられている「食のバリエーション研究所」の基盤が整備されました。

さらにMH冷凍システムを活用したイチゴ栽培の試験・研究について非常に熱心な議論が展開され、これまでの取り組みが高く評価されるとともに、今後の実用化に向けてより具体的な効果や導入コストの提示、栽培面積の大規模化など、積極的に研究を進めるべきであるとの意見を数多くいただきました。



(独) 水産総合研究センター 屋島栽培漁業センター 場長 山本義久氏

陸上養殖では水温管理に係るエネルギーとランニングコスト(運転資金)が問題になります。西条市では省エネ・低環境負荷によって温度調節が可能なMH冷凍システムを活用した様々な取り組みが始まっているので、非常に期待しています。



(独) 産業技術総合研究所四国センター 産学官連携コーディネータ 勝村宗英氏

このプロジェクト(食品加工流通コンピナート構想)はまだ出発点です。この取り組みの理念と情報を、ここにいるメンバーが共有しながら、全国、世界の動きに対応できるネットワークの構築に取り組んでいただきたいと思います。



近畿中国四国農業研究センター 中山間傾斜地域施設園芸チーム長 菅谷 博氏

最終的には農家の方々に活用していただけるシステムを開発することが重要だと思います。MH冷凍システムの技術開発を進めながら、ソフト面でもアレンジし、有効な利用方法を考えていく必要があると思います。



近畿中国四国農業研究センター 産学官推進リーダー 関谷敬三氏

農業研究センターは技術者だけで100人以上抱えています。農業栽培技術のほかにも、新しい技術で生産された農産物・新品種に含まれる特徴的な成分分析など、いろいろな相談に協力できますので、高付加価値化にも寄与できると思います。



東海大学 副学長(教育・研究担当) 内田裕久氏

昨年、アイスランドで開催された国際水素エネルギー会議に西条市とLLPトライアウトえひめの取り組みを発表していただき、世界的にも非常に素晴らしいとの評判でした。ぜひ、国際水素会議を西条市で開催できるよう頑張ってください。



大塚化学ホールディングス(株) 取締役専務 梅津憲治氏

私共はフルーツマトを栽培していますが、夏場の冷却が課題になっています。培地冷却によってイチゴを早期に収穫しようという西条市の取り組みは大変興味があるので、実際の効果と導入コストを早く示して欲しいと思います。



東北大学 名誉教授 新井邦夫氏

バイオマス(生物資源)は、地球上で唯一再生可能な資源です。将来、バイオマスが1次産業のエネルギーを自立させる技術開発が必要です。自然エネルギーをどう使うかが、我々科学技術者に与えられた最大の課題であると認識しています。



東海大学 海洋学部水産学科 教授 秋山信彦氏

陸上養殖の良いところは、水を浄化して海に返せるため、海を汚さないことです。さらに水産資源確保の観点では、海から確保する魚介類に加え陸上で食料を増産できるというメリットがあります。